

第3章 セルフ学習問題 解答と解説

Q1	○	Q2	1 型	Q3	2 型
Q4	その他の	Q5	妊娠	Q6	×
Q7	○	Q8	○	Q9	○
Q10	○	Q11	○	Q12	○
Q13	○	Q14	○	Q15	オ
Q16	オ	Q17	A	Q18	A
Q19	B	Q20	C		

Q6 2 型糖尿病がそのほとんどを占める。

Q7 文章の通り。他、肥満としては比較的軽症でも糖尿病を発症しやすい、食後過血糖の段階から血管障害を発症しやすい、ともいわれている。

Q8 緩徐進行型 1 型糖尿病（SPIDDM）、劇症 1 型糖尿病が認められる。

Q9 免疫チェックポイント阻害薬による副作用に、劇症 1 型糖尿病が記載されている。

Q10 劇症 1 型糖尿病急性のように、極めて急性の発症をとる糖尿病の中には、抗 GAD 抗体陽性化、HbA1c の上昇を待たずに高血糖の急性症状を来す場合がある。

Q11 内臓肥満はインスリン抵抗性を来す。

Q12 文章通り。

Q13 急性、慢性膵炎他、膵腫瘍・他膵腫瘍切除の既往も糖尿病に関与する。

Q14 内分泌疾患と糖尿病の関連が認められることは多いが、中でも甲状腺疾患は比較的多くみられる疾患であり、注意が必要である。

Q15 こんなことも糖尿病とは関係している、と知っていただきたい。自覚症状に乏しく長い経緯を取りやすい糖尿病の経過把握に、健診データは有用である。体重の変化も、体重減少だけでなく、体重増加の過程は内臓肥満の進行の把握・生活指導の介入をはかるのに大事な要素である。また既往歴として、例えば胃癌の術後のダンピング症候群（食後過血糖）の可能性も念頭に置く必要がある。

Q16 発症機序より関連が深いとされている疾患以外にも、こんな病気も糖尿病とは関係している、と知っていただきたい。治療薬にステロイド剤が入っている疾患、副作用に劇症 1 型糖尿病が報告されている免疫チェックポイント阻害薬を使用する疾患、心不全の治療薬として糖尿病薬（SGLT2 阻害薬等）が含まれる可能性のある疾患も含めて、幅

広い既往歴聴取は重要である。

Q17 A HbA1c と血糖値が糖尿病型。糖尿病と診断できる。

Q18 A 血糖の「糖尿病型」を、日を変えて 2 回以上確認した。糖尿病と診断できる。

Q19 B HbA1c のみでは糖尿病の診断はできない。必ず血糖値を測定する。

Q20 C 随時血糖 200mg/dl 以上が「糖尿病型」、HbA1c 6.5%以上が「糖尿病型」であり、いずれも満たしていない。